

大会宣言

本年四月に発生した熊本地震や数次にわたる台風では、多くの人命が失われ、甚大な被害をもたらされた。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

我が国の労働災害は、関係者の努力により、長期的には減少してきており、死亡災害は、昨年初めて千人を下回った。しかし、本年に入り、製造業における死亡災害が増加するとともに、第三次産業を始め労働災害が前年を上回る状況にある。

これらの背景には、労働人口の高齢化、急速な世代交代の進行による現場力の低下、若年層の危険認識の希薄化、雇用形態の多様化などに伴い、安全衛生教育、リスクアセスメント、危険予知活動などの安全衛生活動が低下している面があるのではないかと懸念される。

また、職場におけるメンタルヘルス不調や過重労働、化学物質を原因とする健康障害といった課題に対しては、改正労働安全衛生法により創設されたストレスチェック制度や化学物質のリスクアセスメントを確実に実施するとともに、その効果的な活用が重要である。

第十二次労働災害防止計画の最終年を翌年に控え、その目標を達成するためには、経営トップの強いリーダーシップのもと、安全と健康を守る現場力の強化を柱として、自主的な安全衛生活動の充実・強化に最大限の努力を傾注することが必要である。

東日本大震災から五年を経過し、その被災地仙台で開催される本大会を契機に、被災された事業場などが震災から得た教訓を広く参加者で共有し危機管理能力を高めるとともに、労働災害による犠牲者をこれ以上出さないという決意を新たにし、すべての関係者が一丸となって、労働災害防止対策に取り組むことをここに誓う。

右、宣言する。

平成二十八年十月十九日

第七十五回全国産業安全衛生大会